



訪問しました!  
こうべ男女いきいき事業所

# 小さな企業だからこそ必要

## “人財”を守るワーク・ライフ・バランス

### 株式会社 協同病理

社員数17名の小さな会社が平成19年度の「こうべ男女いきいき事業所」の一つに選ばれました。病理学的検査を専門に行う株式会社協同病理です。誰もが安心して長く仕事を続けられる環境を整えようと、プロジェクトチームが進めてきた取り組みを紹介します。

代表取締役社長 小川隆文さん

診断部主任 いきいき事業所プロジェクトチームリーダー 山口美里さん



右から小川隆文さん、山口美里さん

### みんなが働き続けられる職場へ

協同病理は、大学や病院などからの依頼による病理学的検査や、その他の試験研究を行う専門性の高い医療関連企業です。設立は平成6年。20代の社員が大半の若い会社でもあります。「創業当初は事業を軌道に乗せることで精一杯でしたが、今は人材の確保が一番の課題。良い人材をどう守り、どう増やすか、小さな企業にとって人材は“人財”。何より貴重な財産だと思います」と、社長の小川さんは話します。

社員が長く働き続けられる環境にするにはどうすればいいのか。仕事と家庭の両立支援のための具体的な形をつくらうと平成17年12月に「いきいき事業所プロジェクト」の立ち上げを社員に呼びかけました。

この呼びかけに真っ先に名乗りを上げたのが診断部の山口さんでした。当時は、結婚後も仕事を続けるということがイメージしにくい職場だったため、それを変えたいと思ったのだそうです。

### 社員の声集め、就業規則を改定

山口さんを先頭にチームは始動。社員の意識調査や外部から講師を招いての研修を実施して、ワーク・ライフ・バランスに



病理診断のスペシャリストが集まる協同病理。高い技術力を提供しています

ついて一人ひとりが考える機会を提供しました。プロジェクト2年目には、社員の声を会社のルールに反映させていく作業がスタート。小川社長は「会社が一方的に与える福利厚生ではどうしてもミスマッチが起きる。社員の視点で考え、決めることが大切」と、チームを信頼して見守ってきたと言います。

こうして、平成18年から19年にかけて相次いで策定されたのが、両立支援や労働条件改善を盛り込んだ「一般事業主行動計画書」と、育児休業中の社員をバックアップする「育児休業サポートプログラム」です。さらに就業規則も大幅に改定。育児休業の延長制度や育児短時間勤務制度、未消化の有給休暇を積み立てて介護休業に利用できる制度を整えました。

### はじめの一步 踏み出した

小川社長が「はじめの一步」と例える新たな制度はこうして形になり、既に出産・育児のため制度を利用している社員もいます。本人には安心して休んでもらいつつ、貴重な戦力を欠く職場には過度な負担がかからないよう、休業中の欠員補充やコミュニケーションの取り方などについて社内ではこれまでに念入りな話し合いが何度もされました。

「まだ始まったばかり。本当の成果が見えるのはずっと先でしょう」と小川社長。山口さんも「実際に制度を使っていくなかでより使いやすいものになっていけば」と、次のステップへ思いをはせます。

互いの顔が見える小さな企業ならではのよりきめ細やかで柔軟な両立支援。誰もが働きやすいよう整えられた職場環境は、同社の大きな強みになりそうです。

### 「こうべ男女いきいき事業所」とは?

神戸市では平成15年度から、男女平等の推進や仕事と家庭の両立支援など、男女共同参画に積極的な取り組みを行っている事業所を「こうべ男女いきいき事業所」として表彰しています。